

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
61							
61系統解説	61系統は2007年12月9日より横浜交通開発に移譲されました。横浜交通開発バス全系統路線データを参照して下さい。						
62	横浜駅西口	(急行) 洪福寺、上星川、梅の木、西谷駅	千丸台団地	保土ヶ谷	神奈中	C	神奈中バスを合わせると頻度B(集会所行きも同様)
	横浜駅西口	(急行) 洪福寺、上星川、梅の木、西谷駅、千丸台団地	千丸台集会所	保土ヶ谷	神奈中	DC →	日中の横浜駅西口発のみ運行
	千丸台団地	(急行) 西谷駅、梅の木、上星川	保土ヶ谷車庫	保土ヶ谷	神奈中	IC →	千丸台団地発のみ、休日の市営バス終車のみ
62系統解説	横浜駅西口から出る急行バスです。横浜駅西口を出ると洪福寺、峰小学校、和田町、上星川、川島町、梅の木、西谷駅、下白根橋と主に相鉄線の駅に相当するバス停ごとに停車します。路線開設時に市営バス、相模鉄道バス、神奈中バスで免許出願合戦が起こったとされる路線で、結局のところ3社局乗り入れのバス路線として誕生しました。以前はこの3社局が(ほぼ)順番に発車していましたが、その後相模鉄道バスの担当便が減り、神奈中バスの割合が増えました。2007年4からは相模鉄道バスが撤退し、市営バスと神奈中バスとの乗り入れ路線となりました。その後2007年12月から日中の横浜駅西口発に限り千丸台団地より千丸台集会所まで路線が延長されました。						
63	汐見台ストア前	屏風ヶ浦駅前、石川島横浜工場入口	造船所前	磯子		RC →	平日朝汐見台ストア発のみ運行
63系統解説	磯子営業所所管の幻の路線です。磯子駅と新杉田駅の間にある石川島播磨の工場への輸送便として登場したのですが、現在は磯子駅発着便はなくなりました。長年洋光台1丁目発着と汐見台ストア前発着の路線になっていましたが、2013年2月に洋光台1丁目発着便が廃止となり、汐見台ストア前～造船所間のみ運行になりました。この路線についても2013年末に汐見台ストア発の片方向のみの運行に変更となりました。						

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
64	磯子駅前	屏風ヶ浦駅前、笹堀、上大岡駅前、清水橋、公園前	港南台駅前	磯子	神奈中	C	神奈中バスとの共通定期券の扱いはなし(運行区間は磯子駅～港南台駅、ただし港南台入口から港南台駅に入るルート)
	港南台駅前	清水橋、日野中央公園	上大岡駅前	港南		C →	土曜日夕方港南台駅前発のみ1本運行、港南営業所担当
64系統 解説	<p>磯子駅と港南台駅を結ぶ路線です。途中上大岡駅を経由するので、乗客の多くは上大岡駅で入れ替わります。磯子駅を出ると屏風ヶ浦駅、浜小学校、笹堀まで行き、そこから一路上大岡駅に向かいます。上大岡駅の手前付近は道が狭いことから上りと下りで走行経路が違います。上大岡駅からは清水橋まで鎌倉街道を走り、そこで左折して港南台駅に向かいます。</p> <p>2006年3月15日までは港南営業所の担当でしたが、翌2006年3月16日から磯子営業所の担当になりました。港南営業所時代は港南台駅発の始発、港南台駅発の終バスが屏風ヶ浦駅発着でしたが、所管変更後は磯子駅発着に統一されました。また、休日の朝1便だけあった港南車庫発磯子駅行も廃止となりました。</p> <p>2011年6月13日(実際は18日)から土曜日の夕方に港南台駅前発上大岡駅前行の子系統が設定されました。この系統は磯子営業所ではなく港南営業所が担当します。港南営業所は2006年から5年ぶりに一週間に一便だけですが64系統の担当が復活しました。</p>						
65	青葉台駅	十日市場駅前、中丸入口、若葉台近隣公園前、保育園前	若葉台中央	若葉台		C	深夜バス運行 総合して頻度A
	青葉台駅	十日市場駅前、中丸入口、若葉台近隣公園前、地区公園	若葉台中央	若葉台		B	
	青葉台駅	十日市場駅前、中丸入口、霧が丘高校前	若葉台車庫	若葉台		IC ←	
65系統 解説	<p>23系統と並ぶ青葉台～若葉台地区を結ぶ動脈路線の一つです。青葉台駅から途中の中山谷までは23系統と同一経路で運行します。その先65系統はしばらく直進してから左折し、霧が丘高校前に向かいます。その先、この系統は若葉台団地の外を回り、若葉台中央に着きます。若葉台中央の一つ手前が地区公園か保育園前で系統が分かれます。2007年3月までは中山駅前～若葉台車庫前という子系統もありましたが、こちらは廃止されました。</p>						
66							
66系統 解説	<p>この系統は市営バス有数の赤字路線ということでこれまで何度となく廃止提案が出たのですが、地元の反発などにより存続していました。しかし、2006年3月に残念ながら廃止となりました。路線は横浜駅西口から神奈川大学を循環する路線で36、50、82系統を補完するような路線でした。途中の栗田谷までは50系統と同じルートを走り、その後しばらく66系統の単独区間を走った後で36、82系統に合流し、六角橋、東神奈川駅西口を経て横浜駅西口に戻瑠路線となっていました。1時間に1本の運行でした。</p>						

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
67	梶山	末吉、北寺尾別所、昭和坂上	鶴見駅西口 (鶴見駅入口)	港北		(*1)	
67系統 解説	<p>三ッ池公園近くの梶山から鶴見駅西口まで行く路線です。この路線の特徴は途中第二京浜を走り、臨港バスのエリアに乗り入れて鶴見駅西口に至る点です。朝夕のみの運行ということから、道路の混雑の激しく若干遠回りとなる14系統、104系統の末吉大通り(主に三ッ池道～三角～鶴見駅西口間)経由を第二京浜経由というショートカットで結ぼうというのが路線の意図のようです。ちなみに、鶴見地区は市営バスと臨港バスとの棲み分けがある程度できているのですが、67系統が臨港エリアに乗り入れたり、臨港バスが市営バスエリアに乗り入れることなどが少々あります。元々は鶴見駅西口の先大口駅、新子安駅西口まで乗り入れていたのですが、2000年の7月に鶴見駅西口止まりに短縮されました。</p> <p>運行経路、運行日、運行頻度に関する補足(*1)</p> <p>梶山→鶴見駅西口(平日朝14本、土曜朝1本、休日朝1本) 鶴見駅西口(入口)→梶山(平日朝5本、夕1本、土曜、休日は朝2本)</p>						
68	横浜駅西口	浅間下、藤棚、浦舟町、千歳橋	滝頭	滝頭		C	
68系統 解説	<p>後術する102系統と兄弟関係にある路線です。(現在では)市電の9系統の路線を引き継ぐ形で運行されています。横浜駅西口から浅間下、洪福寺へ来て、尾張屋橋を渡ります。横浜駅近くで東海道線を跨ぐ貴重な路線の一つです。浜松町交差点を直進し、藤棚、久保山、黄金町、阪東橋、浦舟町まで直進します。浦舟町で右折し、中村橋を経て終点滝頭に向かいます。元々はさらにその先杉田平和町まで路線があったようですが、現在は滝頭が終点となっています。68系統は浜松町から洪福寺の区間の渋滞が激しいことから、本数は朝から夜までだいたい40分おきの運行となっており、102系統との並行区間ではメインは102系統となっています。</p> <p>2004年3月までは滝頭営業所と浅間町営業所の共同担当でしたが、現在では滝頭営業所の単独所管路線となっています。</p>						
69							
69系統 解説	<p>かつては磯子駅から上大岡駅を経て戸塚駅を結ぶ路線でした。もともと、全線を直通する路線は非常に少なく、磯子駅発戸塚駅行は始発と終バスのみで、その他は芹ヶ谷や上大岡駅止まりでした。戸塚駅周辺の渋滞が激しいことから戸塚駅から芹ヶ谷の間がまず廃止となり、朝夕は芹ヶ谷から磯子駅、日中は芹ヶ谷から上大岡駅を通り、打越、洋光台駅を経由して港南台駅までの運行となりました。2006年3月の市営バス芹ヶ谷地区の路線全面移譲時にこの系統も一緒に廃止となり、芹ヶ谷から市営バスが消えました。</p>						
70	磯子駅前	屏風ヶ浦駅前、汐見台1丁目、浜小学校前、汐見台ストア前、屏風ヶ浦駅前	磯子駅前	磯子		C	一方循環、深夜バス運行 土曜、休日の午後は頻度B
70系統 解説	<p>磯子駅と汐見台団地を結ぶ路線です。かつては磯子と滝頭の共担路線でしたが現在は磯子営業所の単独所管路線です。磯子駅を出て屏風ヶ浦駅を経由し、汐見台のトンネルを抜けて汐見台団地を回ります。途中先ほど通ってきた所をオーバークロスしながら浜小学校前に出て、磯子駅に戻ります。2006年9月までは一部の便がその先造船所に行っていました。汐見台団地は以前は磯子駅から産業道路を経由して浜小学校前から日石住宅前間の循環区間を逆回りに走る(旧)100系統もあったのですが、こちらも廃止となっています。</p>						

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
71							
71系統解説	<p>路線は循環線ですが、実際の所は上大岡駅～港南区総合庁舎～平戸～芹ヶ谷や上大岡駅～最戸町～芹ヶ谷という区間運行線が多い路線でした。上大岡駅を出たバスは狭い道路を芹ヶ谷に向かって走ります。芹ヶ谷を経て、平戸で左折。上永谷駅の手前で再度左折し、坂道を上ります。南高校前には京急バスも乗り入れており、京急バスの折り返し場があります。京急バスの南高校線は上大岡駅から大変狭い道路を走って南高校に行きます。71系統は南高校の先で右折し、今度は坂道を下って港南区役所の手前に出てきます。鎌倉街道に出たバスは再び上大岡駅に戻っていました。</p> <p>2004年3月のダイヤ改正で平日日中は大幅に運行本数が削減されました。これにより時間帯、区間によって運行頻度が大きく異なるダイヤとなりました。</p> <p>また、全線に渡って神奈中バスと併走するため移譲対象路線となり、2006年1月28日の運行をもって市営バスは撤退し、路線は廃止となりました。</p>						
72							
72系統解説	<p>鶴見駅から出るローカル路線でした。鶴見駅から三ッ池道を経て、末吉橋で右折します。末吉橋を渡り、幅の狭い道路には行っていきます。終点の江ヶ崎は臨港バスのエリアです。一時期は18系統に鶴見駅から三ッ池道、末吉橋を経由して矢向駅に行く便があったのですが、18系統は鶴見駅から元宮経由のみ(平日日中の一部に江ヶ崎に立ち寄る便もありますが)となったので、末吉橋を渡る市営バスは72系統のみとなりました。</p> <p>不採算路線のため、廃止が発表されましたが補助金対象路線となりました。公募の結果臨港グリーンバスが路線を引き継ぎ、2007年4月1日から臨港グリーンバスの鶴11系統として再出発しました(運行本数等は市営バス時代と同じ)。</p>						
73	中山駅前	佐江戸、貝の坂、川和町、川和高校前、牛谷戸、折田公園前、みずきが丘	センター南駅	緑		C	
73系統解説	<p>開設当初の路線は中山駅～川和高校前という路線でした。その後、港北ニュータウン地区の整備に伴い、中山駅～佐江戸～向原～都筑ふれあいの丘～川和高校～川和町～中山駅北口という循環路線が設置されました。後にどちらも中山駅北口発着に変更になっています。</p> <p>市営地下鉄が港北ニュータウンに進出した後、センター南駅で路線を分割されました。その後、再度変更があり、分割した路線のうち中山駅北口～佐江戸～星ヶ谷～都筑ふれあいの丘～センター南駅間を(新)80系統とし、貝の坂～川和町経由については73系統のまま始発を中山駅(南口)に変更しました。一方で最初に出来た中山駅～川和高校線の名残り路線である中山駅北口～貝の坂～川和町～川和高校線が残るなど面白い変遷を持つ路線でした。2007年3月末の港北ニュータウン営業所閉鎖に伴い緑営業所担当となり中山駅北口発便は廃止となりました。更にその後2008年2月に所管は若葉台に変更になりました(2014年11月に再度緑営業所に変更)。</p> <p>2008年3月の市営地下鉄グリーンライン開業に伴い、日中のみ都筑ふれあいの丘駅を経由することになりました。</p> <p>2010年11月1日から路線が変更され、川和高校前から牛谷戸、折田公園方面を経由してセンター南駅へ向かうルートに変更となり、都筑ふれあいの丘駅などへは行かなくなりました。</p>						

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
74	中山駅北口	中山大橋、谷津田原第一住宅入口	中山駅北口	若葉台		B →	一方循環
74系統解説	中山駅北口から出る循環線です。中山駅北口を出ると中山大橋を渡り、青葉台方向に進みます。小山町の先で右折し、坂道を上っていきます。谷津田原住宅付近はこじんまりとした住宅街です。そして青砥(「おと」と読みます)に出てきて、再度中山大橋を渡り中山駅北口に戻ります。かつては緑営業所の管轄路線でしたが、港北ニュータウン営業所の開設に伴い移管となりました。かつては中山駅北口から谷津田原、川和町方面のバスも緑営業所が一部担当していましたが、その後港北ニュータウン営業所設置に伴い港北ニュータウン営業所が担当することになりました。そして港北ニュータウン営業所の閉鎖によって再び緑営業所が担当し、その後2008年2月には若葉台営業所に変更になりました。						
75	鶴ヶ峰駅南口	鶴ヶ峰小学校、くぬぎ台団地	介護施設くぬぎ台	保土ヶ谷		C	鶴ヶ峰駅南口～くぬぎ台団地間は介護施設くぬぎ台発着便とあわせて平日日中の頻度C、土曜日、休日の頻度B
	鶴ヶ峰駅南口	鶴ヶ峰小学校	くぬぎ台団地	保土ヶ谷		C	
75系統解説	他の市営バス路線とのつながりが全くない唯一の路線です。鶴ヶ峰駅のバスターミナルの反対側に当たる南口から発車します。路線のほとんどが相鉄バスのエリアという路線で、くぬぎ台団地まで途中のバス停は3つ、所要時間も約5分という路線です。 2006年1月30日から一部の便がくぬぎ台団地より先介護施設くぬぎ台まで延長となりました。平日は1時間に1本、土曜、休日は1時間に2本程度介護施設くぬぎ台まで運転されます。						
76							
76系統解説	横浜で最後まで残った路面電車6系統を引き継いだ路線でした(2桁目の6はその名残りです)。98系統と対をなす循環線となっておりましたが2006年3月の改変で滝頭～前里町4丁目～日ノ出町駅～桜木町駅間は145系統と統合の上156系統に、桜木町駅～日本大通り駅県庁前～浦舟町～滝頭間は158系統に再編されました。						
77							
77系統解説	横浜駅東口に横浜そごう(今のバスターミナル)ができる以前は朝夕のみの運行、年末年始は運休というまさに幻の路線でした。その当時は芹ヶ谷から横浜駅は西口に行く(旧)82系統がメインでした。しかし、横浜そごう開店後状況は一転し、尾張屋橋から洪福寺、さらには浅間下周辺の混雑が激しく、定時運行が確保しにくくなった82系統は本数の減少が進み、それに反比例する形で77系統が増便されました。挙げ句の果て82系統は廃止となりました。 以前は1時間に2～3本、保土ヶ谷駅東口～平和台間は保土ヶ谷営業所の担当分も含めるとかなりの運行本数があり、また朝夕には藤棚循環線というダイヤもあったのですが、神奈中バスへの移譲対象路線となり2005年7月に大幅に減便され、その後2006年3月に神奈中バスに移譲され市営バスとしては廃止となりました。						

4. 61系統から80系統

系統番号	起点	途中経由地	終点	担当営業所	共同運行	運行頻度	備考
78	磯子駅前	屏風ヶ浦駅前、浜小学校前、岡村町、市電保存館前	根岸駅前	滝頭		B	深夜バス運行
78系統解説	磯子駅と隣の根岸駅を結ぶ路線です。磯子駅発の場合、磯子駅を出た後で一度根岸駅とは反対側の新杉田駅方向に進みます。磯子車庫で右折し、屏風ヶ浦駅を経由し、汐見台のトンネルを抜けます。道幅の狭いところを浜小学校、笹堀、横浜岡村郵便局前、岡村町と経由し市電保存館前に出ます。そして滝頭、下町を経てプールセンター前に出ます。そこで左折してしばらく行くと根岸駅前です。磯子駅発着路線ですが、滝頭営業所の担当となっています。						
79	平和台折返場	児童遊園地、井土ヶ谷駅前、通町1丁目、羽衣町	日本大通り駅県庁前	保土ヶ谷		RB →	朝夕のみ運行・休日運休
	新県庁前	羽衣町、通町1丁目、井土ヶ谷駅前、児童遊園地	平和台折返場	保土ヶ谷		RB →	
	平和台折返場	児童遊園地、井土ヶ谷駅前、通町1丁目、羽衣町	関内駅北口	保土ヶ谷		DB	休日は全便関内駅北口発着
	平和台折返場	児童遊園地、井土ヶ谷駅前、南区役所前(循環)	平和台	保土ヶ谷		RC →	朝夕のみ一方循環運行 休日運休
79系統解説	もともとは芹ヶ谷～県庁前という路線だったそうですが、現在は平和台(折返場)から日本大通り駅県庁前、関内駅北口線がメイン路線となっています。平和台を出て、しばらくは国道1号線を走りますが、やがて右折し、児童遊園地に向かって坂道を上っていきます。児童遊園地の脇を通り、上星ヶ谷につくと今度は坂道を降りていきます。北永田で右折、井土ヶ谷駅前を経て通町1丁目に出ます。なお、平日、土曜の朝夕には井土ヶ谷の交差点で左折し、南区役所前を経て蒔田駅前へ出る循環線もあります。通町1丁目から先は鎌倉街道です。平日、土曜の朝夕に運行される日本大通り駅県庁前行きは本町4丁目まで直進し、本町交差点で右折し、日本大通り駅県庁前に向かいます。一方、その他の時間帯の運行となる関内駅北口行きは尾上町交差点で右折、市庁前を経て市役所の建物をぐるりと一周するような形で関内駅北口に着きます。2001年11月から県庁前(現在は日本大通り駅県庁前)発着便については変更があり、県庁前での乗り場が新県庁前に変更になりました。						
80	中山駅北口	中山大橋、貝の坂、佐江戸、都築ふれあいの丘	センター南駅	緑		C	
	中山駅北口	都橋、貝の坂、佐江戸、都築ふれあいの丘	センター南駅	緑		C ←	平日早朝のセンター南駅発の1本のみ
80系統解説	もともとは横浜駅西口から菊名駅経由の新横浜駅行きとして運行されていましたが、1997年3月に廃止となりました。その後、平成10年になって上記の73系統のうち、中山駅北口～貝の坂～佐江戸～都築ふれあいの丘～センター南駅線を80系統に改称し、復活しました。この結果、貝の坂～佐江戸の間は中山駅(南口)行きと中山駅北口行きのバスがすれ違う区間となっています。中山駅北口へは基本的には中山大橋バス停から入りますが、平日朝のセンター南駅発1本だけ都橋バス停経由となっています。						